

## 5. アンケート調査結果

### 調査概要

敦賀市では平成 16 年度に『福祉つが ぬくもりプラン 21(敦賀市地域福祉計画)』を策定し、『ふれ合い、支え合い、共に生きる ぬくもりのあるまち つが』をめざして、各種福祉施策を推進してきたところである。この敦賀市地域福祉計画は平成 17 年度から 21 年度を第 1 期計画期間に設定しているとともに、この 5 年の間に福祉施策は大きな変革期を迎えている。このため、高齢者や子ども、障がいのある人など市民を取り巻く環境やニーズ等の変化などと、このアンケート調査で把握し、各種施策を検討する上での基礎資料として施策への反映を図るため、本調査を実施する。

#### ● 調査の対象と実施方法

調査内容は平成 16 年度の策定時に実施した調査内容をふまえながら、新たに必要な内容を検討して設計し、市民用と福祉関係者用の 2 種で実施。

調査対象者は、20 歳以上の市民 2,000 人、福祉関係者調査は市内の福祉施設職員、民生児童委員、福祉委員、社会福祉協議会関係者 200 人を対象。

郵送により、平成 21 年 7 月に配布・回収。

#### ● 回答状況

市民調査:配布 2,000 件 回答者数 818 件 回答率 40.9%

福祉関係者調査:配布 200 件 回答者数 142 件 回答率 71.0%

### 市民調査結果

		性別(%)人			
		全体	男性	女性	無回答
年代別	全体	818	289	519	10
	10歳代・20歳代	83	33	49	1
	30歳代	160	49	109	2
	40歳代	159	52	106	1
	50歳代	225	84	139	2
	60歳以上	189	71	114	4
	無回答	2	-	2	-

#### ● あなたは近所づきあいをどの程度していますか。

「ある程度している」が 44%と多く、「あいさつ程度」が 36%、「よくしている」が 10%である。前回調査よりも「よくしている」が 18%から 8ポイント低下している。

#### ● 暮らしやすさ

町内会などの地域の活動:「ふつう」が 75%、満足度は 16%である。

地域の防犯・防災など安全面:「ふつう」が 72%、満足度は 14%である。

自然環境・ゴミや道路などの生活環境:「ふつう」が 61%、満足度は 25%である。

高齢者が安心して暮らせる環境:「ふつう」が 70%、「思わない・不満」が 19%である。

障害者(児)が安心して暮らせる環境:「ふつう」が 67%。「思わない・不満」が 25%である。

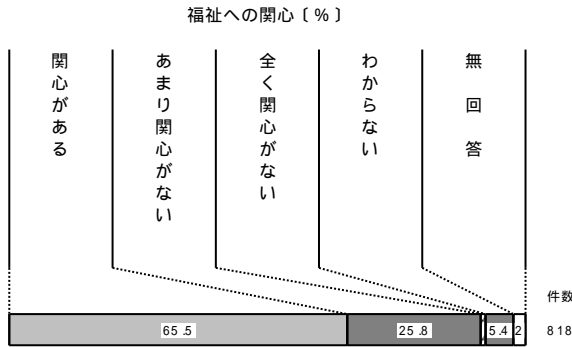
子どもが安心して暮らせる環境:「ふつう」が 68%、「思わない・不満」が 16%である。

健康に関する相談や健康づくり活動:「ふつう」が 75%、「思わない・不満」が 16%である。

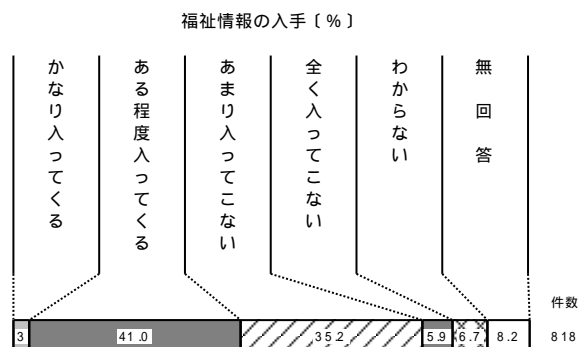
総合的な暮らしやすさ:「ふつう」が 77%、満足度は 16%である。

～ を通じて「ふつう」が多くを占めており、「思う・満足」は 自然環境、ゴミや道路などの生活環境が最も高く、「思わない・不満」は 障がい者(児)が安心して暮らせる環境が最も高い。

● 福祉について関心がありますか。



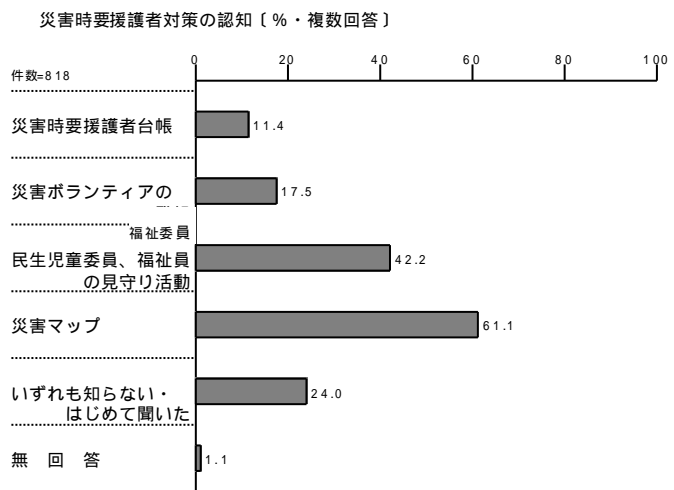
福祉の情報が入ってきますか。



● あなたは福祉サービスの必要性を身近に感じたことはありますか。

「ある」が53%と半数を占め、「ない」が30%、「わからない」が13%回答されている。前回調査と同様の分布である。

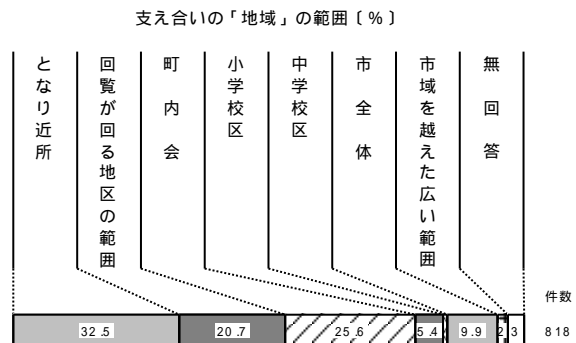
- 敦賀市では、災害時に支援が必要な高齢者や障害者のいる世帯などの把握と見守り活動をしたり、避難支援に協力してくれる災害ボランティアの登録などに取り組んでいます。聞いたことがありますか。



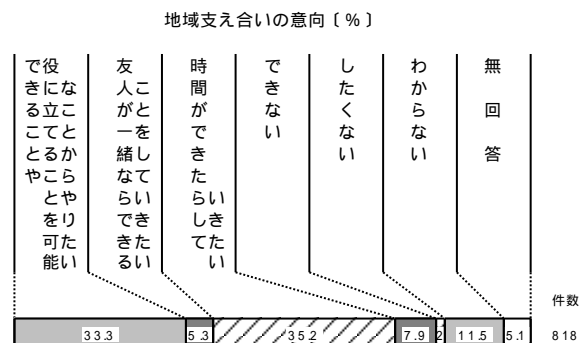
● あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。

参加率は43%で、前回調査に比べて4ポイント上昇している。

- あなたにとって「地域=安心して手助けをうけられる、手助けをできる範囲」はどの範囲だと思いますか。



- あなたは今後、子育てや介護、福祉等を地域で支え合うために身近に「できること」やこれまでのご経験等から「役に立てること」をしていきたいと思いませんか。



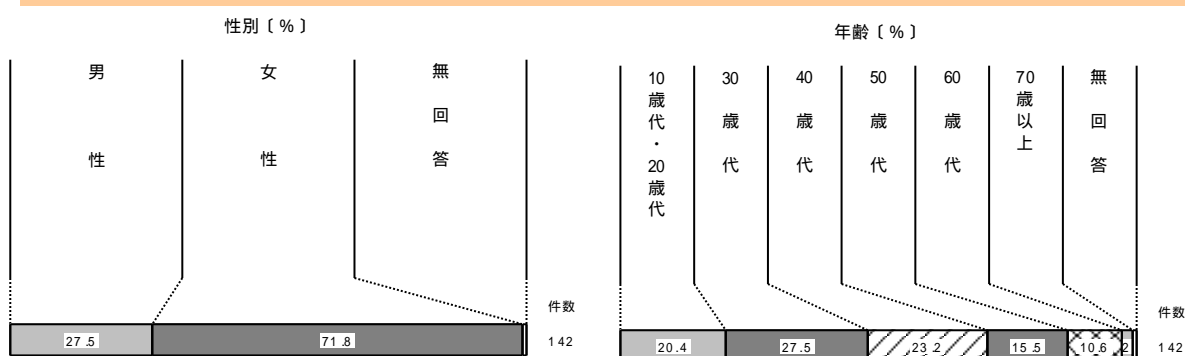
- あなたは、住民が身近に「できること」や「役に立てること」を地域で循環させていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

「気軽に集まり交流できる場の確保」が42%と特に多く回答されており、その他では「して欲しいこと」の掘り起こしと登録」と「相談窓口機能の整備」が22%、「経費等の支援」と「ネットワークづくり」が21%と僅差で続いている。最も回答の多かった「気軽に集まり交流できる場の確保」は前回調査(51%)から9ポイント低下している。

- あなたは、地域社会の役割や地域の人が協力して取り組むことについてどのようなことを期待しますか。

「災害や防災対策」が54%、「高齢者への支援」が51%、「安全や治安への取り組み」が46%と多く回答されている。その他に「教育や子育て支援」が34%回答されている。

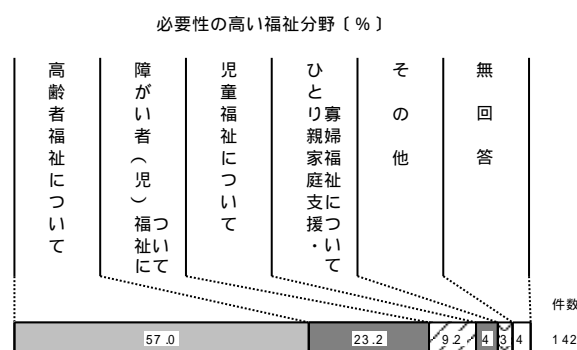
## 福祉関係者調査結果



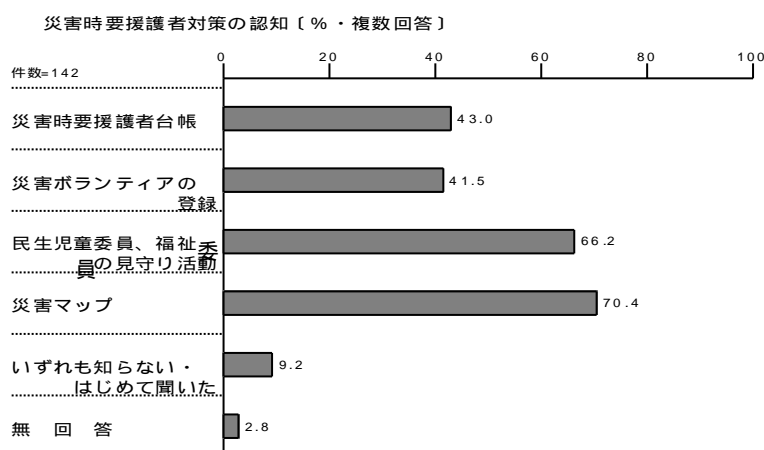
- あなたがたずさわっている福祉事業、福祉活動の分野・組織についてお答え下さい。

「高齢者福祉施設」が37%と最も多く、「社会福祉協議会」が24%、「障がい者福祉施設」が13%回答されている。前回調査に比べると、「高齢者福祉施設」の割合が高まっている。

- あなたが、特に必要性が高いと思う福祉サービスの分野のサービスは何ですか。



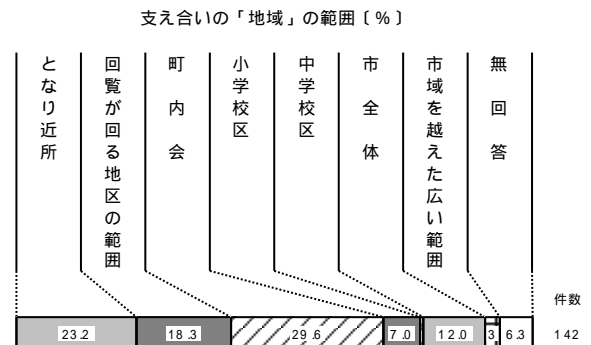
- 敦賀市では、災害時に支援が必要な高齢者や障害者のいる世帯などの把握と見守り活動をしたり、避難支援に協力してくれる災害ボランティアの登録などに取組んでいます。聞いたことがありますか。



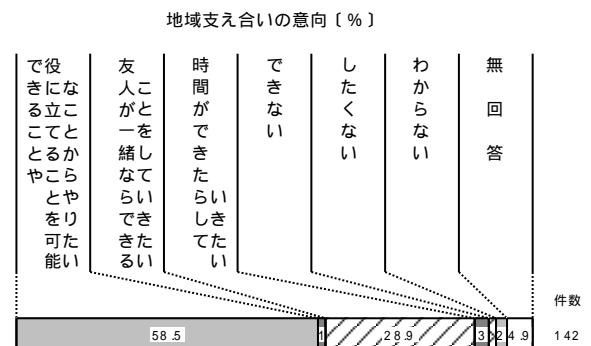
- あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。

参加率は61%で、前回調査と同程度である。市民調査のボランティア参加率は43%であり、福祉関係者の参加率は大幅に高い。

- あなたにとって「地域＝安心して手助けを受けられる、手助けをできる範囲」はどの範囲だと思いますか。



- あなたは今後、子育てや介護、社会福祉等を地域で支え合うために身近に「できること」や、これまでのご経験等から「役に立てること」をしていきたいと思いませんか。



- あなたは、地域社会の役割や地域の人が協力して取り組むことについてどのようなことを期待しますか。

「高齢者への支援」が62%と最も多く、「災害や防災対策」が53%、「見守り活動等の相互援助」が51%と同程度で続いている。その他に「障がい者(児)への支援」「日常生活の協力体制」がそれぞれ40%強回答されている。市民調査では「見守り活動等の相互援助」が24%であるが、福祉関係者では51%と大きく乖離しており、必要性を感じていることがうかがえる。

- 困ったときに助け合えるまち(地域)とはどのようなまち(地域)だと思いますか。

「相談先やサービスの情報提供の充実」が73%と特に多くを占めており、「隣近所の交流と、助け合いが活発」が59%、「困ったときにどんな問題でも相談できる」が46%で続いている。その他の「町内会を中心に地域福祉活動が活発」「福祉活動の相談、調整・交流を担当する専門職員の充実」「学校教育や生涯学習での福祉教育の充実」も40%強回答されている。市民調査に比べて全体的に割合が高い。